

平成18年度(2006年度)事業計画について

平成18年3月25日(土)に、文京キャンパスにおいて平成17年度定時評議員会が開催され、「平成18年度学校法人拓殖大学予算に関する件」が審議の結果、原案通り承認可決されました。平成18年度の事業計画並びに予算の概要は次の通りです。

事業計画

事業計画策定にあたって

平成17年9月22日開催の第6回理事会において、「平成18年度事業計画策定指針(理事長)」並びに「平成18年度事業計画策定にかかる重点事項」が承認されました。これを受け、平成18年度事業計画策定の具体的な方向性及び予算編成における基本的な事項が示されました。予算編成にあたっては各事業の目標達成のため、既存事業をゼロ・ベースから見直し、費用対効果の妥当性・適切性について十分に検証し、実行いたしました。尚、経常費については厳しい財政状況下を鑑み、引き続き経費節減の姿勢を堅持するとともに前年度比5%のマイナス・シーリングを目途に実施しました。

1. 平成18年度事業計画策定指針(理事長)

今日の私立大学を取り巻く環境は、ますます厳しさを加えている。長引く経済低迷と少子化現象の進行、大学間競争の激化などの状況の中で、いよいよ「大学全入時代」を迎えようとしている。そして今や四年制大学の3割、短期大学の5割が定員割れとなり、深刻な大学淘汰の時代が始まった。このように混迷の度を深める大学社会にあって、本学が21世紀に向かって生成発展するためには、建学の理念を踏まえ時代のニーズに対応できる新しい教学システムを創出し、個性豊かで魅力ある大学を再構築しなければならない。この目的を達成するためには、教職員それぞれが自らの役割・任務を誠実に遂行する必要があり、併せて教学面でのドラスチックな改革・改善と、学生により多くの付加価値を付けて社会に送り出すことが、大学生生き残りのための必須要件となっている。また、昨今の大学に対して社会貢献という役割が強く求められていることを考えると、教員には社会的評価を高める優れた研究業績と大学の所有する知的資源の学外への発信も必要とされている。また、事務局においても、大学の教育と研究が最善の効果を上げ得るような積極的かつ機能的なバックアップ、サポート業務の展開が必要である。更に職員は、事務局業務の効率化を図りつつ、いわゆるエンロールマネジメントを担う立場として、大きく大学運営に寄与していかなければならない。現在、法人にと一大事業である文京キャンパスの整備事業が粛々と進められているが当該事業は、単に文京キャンパスをリニューアルするだけのものではなく“拓殖大学の次なる百年”に向けた『拓殖大学ルネサンス計画』の一環であり、並行して教育機構・システムの改革・改善が行われなければ、何ら意味をなさない。現在検討中の大学院新研究科構想を始めとした既存の研究科の新たな展開、学部・学科等の抜本的な見直しなど、種々の教学面における改変の取り組みについては、手を緩めることなく確実に断行しなければならない。このことは、他の設置校においてもまた同様である。本学にとって大きな転換期を迎えた今日、「総論賛成、各論反対」、「議論あって、実行なし」の弊風を打破し、今世紀のサバイバル戦に勝ち残るべく、法人としての総力を結集した果敢なチャレンジが断行されなければならない。以上、平成18年度の事業計画策定に際しての法人運営の指針を述べた。教育・研究と財政という両輪のバランスが、最良の教育・研究活動等を展開する上での不可欠の要件であることは言うまでもないが、そのためにも、より強固な経営基盤・財政基盤を構築しなければならない。法人の輝かしい未来を切り開くべく、長期展望の上に立って、当面する諸課題の解決に全力を挙げて取り組んでいく所存である。

2. 平成18年度事業計画策定にかかる重点事項(理事長)

- (1) 文京キャンパス整備事業は、法人としての「拓殖大学ルネサンス計画」の具現化であり「21世紀に向けた拓殖大学の一大戦略拠点造り」として位置づける。この度の文京キャンパス整備事業第一ステージの着工を受け、全教職員が一丸となり当該事業の推進に、法人を挙げて邁進する。また、この整備事業を始め、その他の諸施策の拡充ために、健全な財政基盤の充実を図る。
- (2) 「大学全入時代」の到来による激化する大学間競争の中で、本学が受験生や企業等から「選ばれる大学」であり続けるためには、学生に対する質の高い教育を施すことが最も優先すべき命題である。そのためには、大学院・学部・学科等、教学全般にわたる間断ない改革・改善のための見直しを行い、その確実なる実行・実現に向けて果敢に取り組んでいく。また、競争原理の導入による配分傾向を強める私学助成・補助金等に対応すべく、研究力を高めるために諸制度等を見直す。
- (3) 文教行政の流れとして、「事前規制」から「事後チェック」へと進んでいることに鑑み、自己点検・自己評価を引き続き実施する。また、第三者評価による大学評価制度に対応すべくその作業を進める。
- (4) 大学に対する社会的評価として、学生教育の成果や高い研究実績等が問われているが、併せて大学の「入口」である入試・学生募集と「出口」である就職・キャリアアップも重要なファクターとなっている。これらが相互により大きな効果を上げるべく、全学を挙げて取り組む。
- (5) 学生が充実した大学生活を送ることができるように、修学環境・福利厚生施設の整備充実を図る。特に八王子キャンパスの施設設備の整備を引き続き行う。また、大学運営の全てにおいて「学生本位」の視点を欠かすことなく、学生の大学生活満足度を高めるために、学生支援活動の強化・充実を推進する。
- (6) 本学に対する社会の理解と評価を高めるために、特に学生募集戦略に立った日常的広報活動の一層の強化・充実を図る。また、これと連動し、本学に対する認知度・知名度を上げるために、本学の有する知的資源を広く社会に発信し、現在展開されている公開講座(オープンカレッジ)などをより積極的に展開する。
- (7) 法人の運営方針に基づき、各設置校間の連携・協力関係を一層緊密にし、一体となってこの厳しい時代に対応する。併せて大学においては、そのために入試制度の改善を図る。また、北海道短期大学については、厳しさを増す短期大学の置かれている環境の中で、将来を展望した抜本的な施策の検討を行う。第一高等学校については、先般の移転という大事業を経て、引き続き教育の改善と生徒募集の安定化に努める。
- (8) 「私立学校法」の改正を踏まえ、経営と教学が不離一体となった大学運営を行うために、ガバナンス機能を高める。また、意志決定の迅速化、合理化をより一層促進するために、体制・システムを再構築する。

3. 平成18年度事業計画策定にあたり(事務局長)

平成18年度の事業計画策定指針及び重点事項について、9月22日開催の第6回理事会において決定しましたので通知しますとともに、これに則り予算編成を行って下さい。この理事長指針及び重点事項については、事務局各部署における予算編成作業の際の単なる要領的なものではなく、学校法人拓殖大学を構成する全教職員に対する法人運営の基本的なスタンス・指針を示したものとも言えます。ご承知の通り今日の私立大学の置かれている環境は、「大学全入時代」の到来による、“定員割れ”という危機的状況下にあり、本学にとっても決して他人事ではありません。教職員はこの危機感を共有し、一丸となり知恵を出し合い、力を出し合って厳しい状況を克服するという強い気概が必要であり、是非この観点からの取り組みを期待しております。つきましては、平成18年度の事業計画策定・予算編成の作業に際しては、これまでの既成概念にとらわれることなく、各事業について「目標達成」・「成果・実績」・「費用対効果」の面などから、妥当・適切な予算計画となっているかを改めて部内・課内等で十分に検討・精査を加えて策定して下さい。また、厳しい財政状況下にありますので、引き続き経費節減の姿勢を堅持し、予算編成に際し、継続事業(経常分)については、平成17年度当初予算額(平成17年度終了事業を除く)の5%減にて策定して下さい。なお、特に次の事項について留意され編成にあたって下さい。

- (1)引き続き教育・研究活動の充実、強化に配慮した予算配分を行う。
- (2)より激化する大学間競争に打ち勝つための教育力、研究力、就職力、そしてこれが集約されている“学生募集力”を強化するための、即効性のある具体的な提案・企画等の事業計画化への重点的予算配分を行う。
- (3)大学基準協会の第三者評価を始め、広範な大学評価を受けるべく準備態勢に入る。
- (4)大学院・学部・学科等の改革・改善に係わる事業

以上、平成18年度の事業計画策定にあたり通達しましたが、具体的には別添の「平成18年度予算編成に係る事業目標及び事業企画書の提出について」に従い、作業を行って下さい。

注)「理事長指針」及び「重点事項」等において、特段のもの以外の「大学」という表現には、拓殖大学北海道短期大学、拓殖大学第一高等学校、拓殖大学日本語学校も含まれていると解釈すること。

平成18年度事業概要

平成18年度の主な事業は次のとおりとなっています。

文京キャンパス整備事業関連

- ・ 第一ステージ体育館等解体工事費、中央教室棟・南教室棟建築工事費、既存建物のアスベスト調査費等、同整備事業に伴う受配者指定寄付金募集事業経費

教育・研究支援関連

- ・ 教研LANサーバ更新、スクールアグリーメント契約
- ・ 事務基幹システム更新、事務用PC・サーバ更新
- ・ 文京キャンパスオープン利用室PC更新
- ・ 八王子キャンパスA館第2LLのCALL化、D館CALL教室サポート支援
- ・ 工学部共通サーバ更新、工学部多円盤振動釣り合い実験装置更新
- ・ ホームページ学内ネットワーク整備
- ・ 子供理科教室開講
- ・ (継続事業) 特別研究費、研究室机・椅子更新、政経学部短期海外研修プログラム、産学連携研究センター共同研究費、諏訪工業メッセ出展
- ・ その他

学生支援関連

- ・ 統合授業支援システムの構築(Web履修登録システム、新・履修成績システム)
- ・ 学生ID一元化管理ソフトウェア購入
- ・ 八王子キャンパス通学バス学生負担軽減補助、高尾駅南口バス停整備
- ・ 就職キャリア支援、障害学生学習支援プログラム
- ・ 学生オピニオンリーダー(仮称)制度、TOEFL・TOEIC賞表彰制度、就職合宿セミナー、学部新入生カイトブック作成
- ・ その他

研究所・図書館関連

- ・ 共同研究プロジェクト、研究所所蔵図書の整理、研究所公開講座新設
- ・ 旧外地関係資料の整理再編
- ・ その他

施設・設備関連

- ・ 八王子キャンパスA館50人教室改修・100人教室ワイヤレスマイクシステム設置
- ・ 八王子キャンパスC館大教室プロジェクター設置、D館104教室プロジェクター設置
- ・ 工学部棟空調機保守・修理
- ・ 八王子キャンパスA館アスベスト粉塵測定・除去工事、A館ほか耐震診断
- ・ 八王子キャンパス管理研究棟バリアフリー化工事(自動ドア設置2ヶ所)
- ・ 八王子キャンパス第一体育館外壁塗装、トイレ・シャワー室改修、床及び階段等補修、空調設備設置、体育授業用機器購入
- ・ 扶桑寮リニューアル工事
- ・ その他

設置校

- ・北海道短期大学
経営経済科資格取得講座・就職体験講座、環境農学科農場公開デー開催
及び水田区画整備、校舎屋上防水全面改修工事、開学40周年記念事業
- ・第一高等学校
特進コース合宿実施、小平市花小金井旧校舎跡地記念碑設置、課外活動専用
貸切バス導入による賃借料、八王子キャンパスグランド使用改修工事負担金
- ・その他

その他

- ・大学院地方行政研究科(仮称)創設費、大学基準協会認証評価申請準備費用
- ・拓殖大学後援会奨学生奨学金の受け入れ
- ・拓殖大学理事長杯サッカー・バレーボール大会、箱根保養センターの名称変更
- ・その他